

Philosophy for Everyone 2013-2015

P4E研究会編



UTCP - Uehiro Booklet 11

WZCD-Uehiro Booklet 11

Philosophy for Everyone 2013-2015

Philosophy for Everyone 2013-2015

P4E研究会編

UICP - Uehiro Booklet 11

Philosophy for Everyone 2013–2015

Copyright © 2015 UTCP

UTCP (The University of Tokyo Center for Philosophy)

Published by UTCP, with the generous support of the Uehiro Foundation

Correspondence concerning this book should be addressed to:

UTCP

3-8-1 Komaba, Meguro-ku, Tokyo 153-8902, Japan

Publishing Editor: Fukuko ABE, Sora SATO, and UTCP

Printing by Asahi Printing Industry Co., Ltd. 67 Motosoja-machi Maebashi-shi Gunma
371-0846, Japan

ISSN 2187–9567

はじめに

梶谷 真司

〈イントロダクション〉

P4E (Philosophy for Everyone) への道

梶谷 真司 ————— 13

〈エッセイ〉

学校

Philosophy in School

土屋 陽介 ————— 35

哲学教育を何ものとして行なうのか？

村瀬 智之 ————— 39

今日はどんなおみそ汁にしよう

綿内真由美 ————— 43

心の「ポケット」が開くまで

中川 雅道 ————— 47

哲学対話をめぐる道

古賀 裕也 ————— 51

哲学はすべての人のために ~ Philosophy is for Everyone

阿部ふく子 ————— 55

サマーキャンプ

高校生のための哲学キャンプ ~ 思考することの喜びと「問い」の大切さ

佐藤 麻貴 ————— 61

高校生のための哲学キャンプ ~ チューターの視点から

神戸和佳子 ————— 65

哲学のきっかけを辿って

水田 陸 ————— 69

高校生のための哲学キャンプ	
榮 真由	73
駒場祭	
共に問い、考え、語ることの創出 ～ こまば哲学カフェの場合	
安部高太郎	79
「こまば哲学カフェ」に関わってのモヤモヤ	
河合 隼雄	83
つくる目線で「哲学カフェ」を	
山村 洋	87
問いかけっこ	
豊 昌樹	91
SF	
『銀河鉄道 999』を使った哲学対話 ～ モヤモヤ感の探究	
稲原 美苗	97
SF と哲学対話 ～ 日常という薄い膜への警告者	
小村 優太	101
演劇	
私の身体をさがして ～ 哲学ドラマといういとなみの中で	
松山 侑生	107
哲学ドラマと当事者研究 ～ 弱さの情報公開の観点から	
水谷みつる	111
哲学を想像し、演劇を創造する「哲学ドラマ」	
大谷賢治郎	115
科学	
天文学と対話のすてきな関係	
高梨 直紘	121
「平和で豊かな日本」と大型科学	
横山 広美	125
「問うこと」考	
大木 聖子	129
NPO	
4 歳から 6 歳のこども哲学対話実践を振り返って	
川辺 洋平	137
自分であることに臆することなく	
井尻 貴子	141

「女性のため」から「4E」へ	
廣井 泉	145
地域	
みんなで哲学 なんでもてつがく	
中川 知美	151
どこでもない、ここで～私の街の哲学カフェ	
尾崎 絢子	155
世界が認めた日本の田舎・阿蘇の価値を上げるための対話	
大津 愛梨	159
「地域」から逆照射される「都会」のあり方	
～熊本県阿蘇地方での哲学対話から	
江口 建	163
婚活イベントと哲学対話	
梶谷 真司	169
大学生の地域活動における哲学対話の応用と展開	
榊原健太郎	173
〈特別寄稿〉	
子どもの哲学はどういう教育か？	
河野 哲也	181
学びの場の構造を転換する p4c の対話教育	
豊田 光世	185
カフェと、まちと、クルミドの朝モヤ	
影山 知明	189
デザインに哲学を	
早川 克美	195
死ぬまで学ぶために	
森 玲奈	199
哲学対話の場としての学習塾	
李 伽倻	203
対話イベント一覧	207
著者紹介	217

はじめに

P4E = Philosophy for Everyone（哲学をすべての人に）というのは、P4C = Philosophy for Children にちなんでつけられた名称である。P4C はもともと教育の一種であるが、体験した人なら、おそらく誰もが「これは子どもだけのものではない！」と直感するだろう。だから 2012 年に UTCP ではじめて行ったワークショップのタイトルはおのずと Philosophy for Everyone となり、それがそのままプロジェクト名になった。以来いろんな活動をしてきた。UTCP では、普通ならあまり取り上げられないテーマで対話イベントを行い、また小中高の学校で要請があればどこへでも行った。マンションや地域のコミュニティの活動にも協力した。東京のみならず、北海道から九州まで行った。そのあいだに、いろんな人たちとのつながりができた。それは子どもから大人まで、いろんな世代、職業、地方の人、つまり、文字通り everyone であった。その間、自分でも、ただ楽しいという気持ちに押されて、何でも試してみた。だからそれは Philosophy for Everything（何でもありの哲学）でもあった。

そうしてできたいろんな人との豊かなつながりを、そろそろ一つにまとめていい時期に来たと感じた。そこで、この 3 年間に UTCP のイベントに関わった人たち、あるいは哲学対話を通して私と知り合い、一緒に仕事をしてくださった人たちに原稿を依頼し、UTCP のブックレットとして出すことにした。P4E（P4C）の活動全体に言えることだが、執筆者は研究者や学生以外に、社会のいろんなところで活躍する人たちが多く、この本を読む人は、哲学の予想を超えた途方もない広がりを感じ、そこに自分も加わりたいと思うだろう。そしていつか、お互いに出会うにちがいない。その日を楽しみにしつつ、この本をみなさんに届けたい。

UTCP P4E プロジェクトコーディネーター
梶谷 真司



ワークショップ
「Philosophy for Everyone」
(2012.11.3)



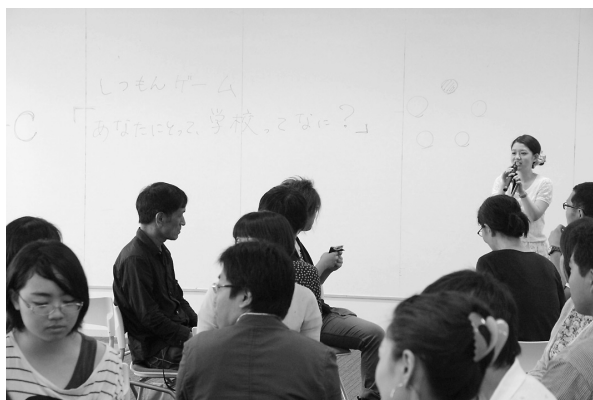
「研究」ではない哲学：
カフェフィロの活動
(2013.2.2)



哲学とビジネス
(2013.5.22)



ハワイp4c
ワークショップ
(2013.6.29)



学校をめぐる哲学対話
(2014.6.7)



中高生企画の哲学対話
「The Future Talk」
(2015.8.2)